

施工管理と施工のポイント

テールアルメ工法は「土」を主体とした土構造物ですから、土工に関わる施工及び施工管理の一般的留意事項は、「道路土工－施工指針」等を参考にしてください。

① 基礎コンクリートの出来形管理(コンクリートスキンの場合)

テールアルメ工法の基礎コンクリートは、壁面材(コンクリートスキン)を組み立てる場合の均しコンクリートですが、高さや平坦性の精度は施工開始にあたり、工程の進捗に大きく影響します。基礎コンクリートを精度よく丁寧に仕上げると、コンクリートスキンの組立て調整が容易になります。

ポイント

基礎コンクリートの高さは、計画高さに対して数mm低く打設します。この理由は、コンクリートスキンの組立て時に、計画高さと製品高さの調整用にスペーサー(厚さ2～3mm)を使用する余裕をあらかじめ設けておくためです。基礎コンクリートを誤って高めに打設すると、はつり作業などが必要になります。

② 壁面の垂直度管理

壁面は盛土転圧時に壁前面方向に押し出される傾向があります。

壁面の垂直度は、全体の出来形の良否判定のポイントとなりますので特に注意する項目です。垂直度の確認は、壁面材を組み立てる毎に行い、必要に応じてその都度調整します。

ポイント

壁面材は、組立て時に若干盛土側に傾斜させて設置します。この傾斜の割合は、使用する盛土材料の土質・含水比や施工の仕方によって現場毎に異なりますが、一般には1%程度が目安です。

③ 盛土の締固め管理

十分に締固められた盛土は、圧縮沈下も少なく、水に対しても安定しています。盛土の締固め度は、テールアルメの補強効果にも大きく影響します。安定性の高い良好なテールアルメ盛土を構築するためには、盛土材料を薄く敷き均し、しっかりと転圧します。締固め度はJISA1210の規定による95%以上(A、B法)、90%以上(C、D、E法)の乾燥密度を確保してください。

ポイント

盛土材のまき出し、敷均し、締固めは壁面に平行に行います。またストリップの不陸を盛土方向に逃がすように施工します。

④ 目地の調整

コンクリートスキンは空積みの構造ですから、左右の目地間隔を一定にするよう調整すると、出来形が美観よく仕上がります。

ポイント

間隔定規を使用しながら、左右の目地間隔をくさびを用いて、バランスよく調整します。くさびは次のコンクリートスキンを設置する際に取り外します（局所的なひび割れの原因になります）。